Phantom.

kamall

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｐｈａｎｔｏｍ.

【Ｎコード】
Ｎ９５３２Ｄ

【作者名】
ｋａｍａｌｌ

【あらすじ】
主人公最強です。ちょくちょく恋愛も入れていく予定です。まあ暇つぶし程度に読んでみてください（。＞Ｕ＜）ノ

1：誕生（前書き）

最強の魔術師が今ここに誕生した・・・

1：誕生

このアルビスという国には義務教育にまで魔法が取り入れられていた。

そんな国のある一つの家に男の子が誕生した。

「奥さん！！立派な男の子ですよ！」

助産婦さんがそう叫ぶと奥さんと呼ばれたその女性はにっこりと微笑んだ。

それと同時刻。

「息子が生まれたのか！？それは早く見なくては！急ぐぞ！」

生まれた男の子の父親が興奮してそういうと、隣に居た男が口を開いた。

「旦那様。落ち着いて下さい。一国の頭首ともあろうお方がそのような姿では困ります。」

「おぉすまんな。息子と聞いてつい・・・な？分かってくれカイル。」

カイルと呼ばれた男は盛大なため息をついた。

「とりあえず魔力を測ってみましょう。」
助産婦はなにやら棒状の物を取り出した。そしてその棒のような物を生まれたばかりの男の子の口に入れた。
すると棒の中のメーターが赤く光り始めた。

ジジジジジ・・・
「こっこれは！！」

その瞬間部屋中が赤い光に包まれた。

2：誕生2（前書き）

カイル目線が入っています。多分てか、絶対読みにくいです。すんません。我慢して下さい；；；；

2：誕生2

「こっこれは！」

助産婦が驚くのも無理はない。なんせこの男の子。ましてや赤ん坊にこれほどの魔力があるとは誰も思うまい。

「ＳＳＳランク・・・」

ＳＳＳランクとは最強ということだ。

この国では今までの最高ランクで

「ＳＳランク」だ。そのＳＳランクですら2人しか確認されていない。

つまりこの男の子は赤ん坊にして最強の称号を得たのである。

「え！？今なんと？私の聞き間違いでなければ

「ＳＳＳランク」といったか？」

『だからそうですってば！！あたしだってびっくりしたんです！！』

電話の奥で助産婦が叫んでいる。

まさか・・ふふッ♪早く旦那様に伝えなくては♪

秘書・・・もといカイルは不敵に笑った。

「何ぃぃぃぃ！？！？ＳＳＳランクだと！？ありえん！さすが我が息子だ！あぁ！！しかし息子のくせに生まれたばかりで父親のランクを越しおって！」

さっきからこの繰り返しだ矛盾しているな。というか生まれたばかりでＳＳＳランクか。普通は修行をしてランクをあげるんだが・・・

そうなのだ。この国では普通修行をしないとランクが上がらない。さっきから叫んでいるおっさん。いやこの国の頭首クロコでさえＳＳランクになるのに血の滲む努力をしたのである。ちなみにもう一人のＳＳランクは前頭首マイル。つまりクロコの父親がそうである。（いまでは頭首を引退して隠居している。）

「こうはしてられん！家族会議だ！」

～～～３０分後～～～

「今回の家族会議のテーマは、我が息子の名前だ。私が考えたのはな、」
頭首：クロコ（以下クロコ）が嬉しそうに発表しようとすると、

「もう決まっています。」
そう言ったのは男の子の母親、メリッサである。

「あなたじゃろくな名前は考えてこないと思って私が決めさせて頂きました。」
そう言うとメリッサは美しく笑った。クロコはこの笑顔を見るとどうも逆らえない。

「分かった。で、どんな名前にしたんだ？」

「シャイン。」
とメリッサは一言。

「シャインか・・うんいい名前だ！気に入った。」

こうして赤ん坊の名前が決まった。この時はまだ誰も気付いていなかった。赤ん坊、いや、シャインの真の能力に・・・

3：キャラ紹介（前書き）

キャラの紹介です！

3：キャラ紹介

名前：シャイン

性別：男

ランク：ＳＳＳ

属性：？

魔器：？

髪色：黒

眼色：右黒、左水色

使い魔：？

名前：クロコ

性別：男

ランク：ＳＳ

属性：雷、氷、火
魔器：黒銃
髪色：銀　紅メッシュ
眼色：紅
使い魔：九尾（狐）

名前：メリッサ
性別：女
ランク：A
属性：水、風、土
魔器：扇
髪色：銀
眼色：青
使い魔：孔雀（くじゃく）

名前：カイル
性別：男
ランク：S
属性：時空
魔器：短剣
髪色：青
眼色：黄
使い魔：ケルベロス

名前：マイル
性別：男
ランク：SS
属性：光、闇

魔器：槍
髪色：黒
眼色：黒
使い魔：エルフ

これからもキャラが増えてきたら紹介していきたいと思います。以下字埋めです。

^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^
^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^^

︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿
︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿︿

4：入学（前書き）

今回は繋ぎなんで内容は微妙だと思います；；でも次回からはしっかりした内容になると思うんでよろしくお願いします

4：入学

シャイン
「やべぇ！遅刻する！入学初日で遅刻とかあり得ねぇ！」
??
「おい！シャイン待てよ！俺を置いてくな！」

シャイン
「おぁ！ケン！いきなり現れんな！」

ケン
「てか何でお前そんな急いでんだよ？」

シャイン
「何でって遅刻するからだろ！？」

ケン
「馬鹿ッ！まだ7時５０分だよ！」

シャイン
「はぁ！？」
俺は自分の腕についている時計を見つめた。

シャイン
「本当だ・・・焦りすぎてて見間違えてた。」
恥ずかしい！どうしよう！しかもよりによって見られたのがケン・・
絶対笑うぞこいつ。

ケン
「ギャハハハハ！！馬鹿だろ馬鹿！」
ケンは期待を裏切ることなく大笑いした。

ープチッー

ケン
「ん？今何か不吉な音が聞こえたような・・」

シャイン
「ケン・・どうやらお前は死にたいようだな。」

ケン
「え！？てかシャインの後ろに黒い物が見えるんだけど！！」

パチンッ
シャインが指を鳴らすとケンの周りに赤い炎の玉が無数に浮かんだ。

シャイン
「どんまい！」
もう一度指を鳴らす。

パチンッ
ゴォォォォォ！！ケンの体を炎が包む。

ケン
「うがぁぁぁ！！！」
ケンはこの時シャインは敵に回してはいけないと悟った。

??

「ほぅ。高校1年生にして火の中級魔法を詠唱無しで出すとはねぇ・・・面白い奴が居たもんだ。」

ザッ謎の男は木々をすり抜けて消えてった。

さっき誰かに見られていただがいきなり消えた。なんだったんだ?

ケン

「お~い今度は本当に遅刻するぞ!」

いつの間にか生き返ったケンはシャインを促す。

シャイン

「ん?あぁ今行く。」

シャインは微妙な違和感を感じながら学園へと急ぐのであった。

??

「みなさんこんにちは。この学園の

学園長をしているアクティスだ。これからの君達の成長を楽しみにしている。これで私の話は終わりとする。」

学園長はとても綺麗な女性だった。年は３０歳って所だろう。それにしても何なんだこの学園。
最初見たときまじでびっくりした。
なんせ見た目が城みたいだったから。
案の定中に入ってみたらさらにびっくり。床は大理石。電気はシャンデリア。
壁にかかっているのは有名な絵画。
置物はどれも高そう。さすが金持ち学校なだけある。

ケン
「お～いシャイン！クラスどこだったぁ？」

シャイン
「えーっと、Ｆらしい。」

ケン
「うぉ！まじで？俺もＦだよ！！やっぱ俺ら運命共同体なんだな！」
ケンはニカっと笑った。しかしシャインは・・・

シャイン
「お前、朝は中級で済ませてやったが、どうやら上級を受けたいらしいな。」
冷たく笑っていた。

ケン
「いや、大丈夫だ間に合ってる。」

シャイン
「そうか。そんなに受けたいのか。では・・」

パチンッ
シャインが指を鳴らす。するとケンの下に魔法陣が出てきた。

ケン
「ちょっとまて！やめろ！死ぬ！」
そんなケンの虚しい声は届かず、もう一度指を鳴らす。

パチンッ
バリバリバリ！！
雷の中級魔法の応用。中級といえども威力は上級並みだ。
この後ケンの呻き声が体育館に響き渡ったのはいうまでもない。

そんな二人のやり取りを静かに見つめている人物がいた。それはこの学園の学園長アクティスだった。

アクティス
「あいつ。この年で中級の応用ができるのか・・・それにあのケンと呼ばれた男。あれだけの攻撃を受けて立っていられるのか。興味深いな。面白い。あいつらなら良いかもな。」
アクティスはニヤリと笑って体育館を出た。

5：入隊

??

「あ～今日からお前らの担任になったアルベインだ。」
アルベインはそう言うとちょっと丸みがかった字で黒板に自分の名前を書きはじめた。

シャイン
「なあ、朝妙な違和感を感じなかった？」

ケン
「そうだな～分かんねぇ」

シャイン
「そっか。ならいいんだけど。」

ケン
「何かあったのか？」

シャイン
「いや・・・なんでもないよ」

ケン
「おぅ。・・・でも一人で悩むなよ。」

シャイン
「あぁ分かってる。何かあったら絶対に言うから。」

二人が話し込んでいると、アルベインが口を開いた。

アルベイン
「あ～あと、シャインとケンは学園長から呼び出しかかってるからＨＲ終わったら学園長室に行け。」

げっ俺何かしたかな～朝のやつか？ちょっと派手にやりすぎたかな？

ケン
「うぃ～ッス」

シャイン
「はい。」
そのころ学園長室では・・・

アクティス
「はい。２名ほど新しく入隊させたいのですが。えぇ。とても面白い人材です。はい。ありがとうございます。では後ほど。」
ツーツーツー

アクティス
「ふふ♪楽しくなりそうね。」

シャイン
「おい。ここで良いんだよな？」

ケン
「ああ。多分な・・・」

シャイン
「じゃ、入るぞ。」

ケン
「了解。」
ガチャ・・・
扉を開けると、朝見たばかりの綺麗な女性が椅子に座っていた。

アクティス
「ようこそ。一つ確認したいことがあるんだけどいいかしら？」

シャイン・ケン
「はい。」

アクティス
「シャイン君なんだけど、あなた国王の一人息子でしょ？」

シャイン
「・・・ッ！何でそれを」
シャインは国王の息子という事を隠して入学していた。

アクティス
「ふふっ。実は私ね『黒の騎士団・2番隊隊長』なの。名前くらい聞いた事

あるわよね？」

ケン
「黒の騎士団の２番隊って・・・」
黒の騎士団・２番隊とは、黒の騎士団の中で主に戦闘を担当としている。

シャイン
「あぁ。」

アクティス
「ふふッ。知ってるんなら話が早いわ。実はあなた達に『黒の騎士団・２番隊』に入って欲しいの。今２番隊は深刻な人不足になってて。」

ケン
「嘘でしょ！だってこの前ランクＳのドラゴン討伐したってニュースでやってましたよ！あのドラゴンを倒すには１０人は必要ですから！！」

アクティス
「私の隊は全部で３人しか居ないわ。」

ケン
「！？って事はドラゴンをたった３人で討伐したって事ですか？」

アクティス
「そうよ。」

ケン

「あり得ない・・・無
「いいですよ。」」

ケン
「うぉい！？シャイン何言ってんだよ！」

シャイン
「実に面白そうだ。」

アクティス
「じゃあこれからよろしくね。」

シャイン
「はい。よろしくお願いします。」

ケン
「俺の意見は！？」

シャイン
「お前に拒否権は無い。」

ケン
「あっ・・そうですか。はい。了解です」

アクティス
「まずあなた達のコードネームを決めましょう。」

ケン
「コードネーム？」

シャイン
「コードネームってのは相手に本名を知られちゃいけない職業の人間が
使うあだ名みたいなもんだ。」

アクティス
「じゃあまずはケン君からね。・・・リバースなんてどう？」

ケン
「いいですけど
どういう意味なんですか？」

アクティス
「ようは再生ってことね。あなたどんな魔法喰らっても立っていられるでしょ？それはね、あなたの特殊能力で『無効化』っていうの。無効化とはその名の通り魔術を受けてもその魔力を無かった事にしてしまうの。あっでも実弾とか殴り合いとかには適さないわね。」

ケン
「へぇ～じゃシャインは？」

アクティス
「そうね、ファントムってどう？」

シャイン
「良いですよ。」

ケン
「シャインのはどうゆう意味？」

アクティス

「『怪物』ってとこね。シャイン君は確かＳＳＳランクよね？って事は何でもできる。怪物みたい。そうゆう意味も込めてファントム。」

ケン
「そっか。何かかっこいいな」

シャイン
「あぁ。これからがたのしみだ。」

このあとにすさまじい戦いが待つことを2人はまだ知らない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9532d/

Phantom.

2010年10月9日17時59分発行